



市議会レポート

第3号

三原市議会議員

正田 洋一

“未来を考える”
“地域をもっと元気にする！”

発行者：正田洋一 三原市本町 2-11-12 正田洋一後援会事務所 TEL/FAX 0848-63-0085 発行責任者：正田洋一

kindness honesty truth fellowship future go ahead kindness honesty truth fellowship future go ahead kindness honesty truth fellowship future go ahead



あけましておめでとうございます。本年もご指導・ご支援よろしく申し上げます。

市議会議員は、選挙区内において賀状でのご挨拶が公職選挙法に抵触する可能性があるため、2月上旬のご挨拶となり、大変ご無礼いたします。さて、12月議会(平成25年第5回三原市議会定例会議)で3回目の議会となりました。今議会の議案では、「燃えるごみ指定袋の価格見直し」が注目の議題でした。

また、4月の新体制発足から12月で9ヶ月になりました。まだ、街づくり構想が理事者側(市長側)から提示されていません。シンクタンクの議論待ちという理解もありますが、次の3月議会での素案の提示が、時間的リミットだと考えています。また、市民アンケートでも中心市街地活性化が三原の一番の課題であるとの結果が出ています。今年は、三原市としても勝負の年、街づくりと地域活性化の構想と具体策、特に投資案件をまとめる時期だと思います。合併特例債の期限はあと4年です。時間はありません。

平成25年第5回 定例会 報告

■ 一般質問

以下の3点について質問を行いました。

1. 三原赤十字病院の産科医療について
 - (1) 分娩可能な医療体制の整備の現状について
 - (2) 助産師の流出懸念について
2. 中心市街地活性化について
 - (1) 中心市街地活性化戦略とシンクタンクの議論整合性について
3. 市政のソーシャルメディア活用について
 - (1) ホームページリニューアルとソーシャルメディア活用の検討状況
 - (2) 市長フェイスブックページ開設について



1点目の三原赤十字病院の産科医療の充実についてです。

課題意識

三原市の産科医療の課題である「産科医師の確保」はもちろん、「助産師流出の懸念」を問題提起するものです。助産師を失ってから対策を考えるより、いまのうちに対策を考えなくてはならないのです。なお、三原市では年間800人程度の子どもの産まれています。その約3分の1が、三原赤十字病院で産まれました。3分の1を取り扱う産科医療機関がなくなったこと考えると、重要な課題であると感じていただけたと思います。この状態を放置すれば、三原で産まれる子どもが激減します。一方、県内でも産科医師のいない地域は多くあります。県内の優先順位、現在の医療体制の整備といった県全体としての捉え方も重要ですが、三原市行政とすれば三原としての体制維持を一番考えるのが役割だと私は思います。

質問

三原赤十字病院の産婦人科では、平成25年10月より分娩中止となった。この状態を三原市として課題認識しているか。また、その解消および対応状況について何う。また、本件に関して、市長は、トップセールスで課題解決に奔走されていることも聞いている。今後も同様に関係団体と総力で取り組んでいただくことと、別の視点として、「助産師の流出懸念について」、現状および対策について何う。



回答 三原市では分娩の約3分の1を担っていた三原赤十字病院の分娩中止の危機を重く受け止め、三原赤十字病院や広島県と連携し、産婦人科医師の確保に努めてきた。岡山大学病院に、病院長、市長が訪問し、産婦人科医師の派遣に関する要望書を提出。また、市長および三原市医師会長の連名により、「三原赤十字病院の産婦人科医師確保に関する要望書」を県知事に提出した。より困っている所を優先して取り組むとの意向もあるが、今後尾三圏域における周産期医療について状況把握と今後の体制整備について引き続き検討していく。

「助産師流出の懸念について」、三原赤十字病院では、常勤の助産師が10名おられる。

現在、助産師外来や産科以外の診療科の入院患者の看護などの医療業務に従事しており、退職された助産師はいない。しかし、このまま分娩の取扱いが無い状態が長期化すれば、助産師のモチベーションが下がり、分娩のできる医療機関で働くことを希望される助産師もでてくる懸念される。ついては、早期に分娩再開の体制に備え、産婦人科の医師確保とともに、助産師の人員体制の維持に努めていただくとともに、市としても、今後も引き続き、広島県、三原赤十字病院、三原市医師会と連携し、産婦人科医療の再開に向けて鋭意取り組んでいく。

要望 この件に関し、引き続き、市長に先頭になって頑張ってもらいたい。また、助産師の流出の懸念について、他市で助産師不足にあえいでいる状況を加味すれば、引き抜きにあってしまう可能性がある。そうした場合、医師が見つかって分岐が再開できなくなる。また、助産師のいない病院に医師は来ないという現実もある。三原赤十字病院という、民間病院の人事に関与するのは難しい部分もあるが、三原赤十字病院関係者と対策について、協議、検討していただきたい。

2番目の中心市街地活性化策とシンクタンクの議論の関係性についてです。

課題認識 中心市街地活性化の課題について、私の危惧は、街のランドデザインがなく、個別の施設や場所の利活用が議論されており、議論自体は活発なのだが部分的な最適な結論になりやしないかという懸念です。中心市街地には、公共施設マネジメントの考え方は必要で、駅前東館単独をどうするのではなく、三原市全体の街づくりの観点から検討してほしいとの課題認識です。

質問 中心市街地活性化戦略とシンクタンクの議論の整合性について伺う。シンクタンクの各部会において、個別の施設の活性化、駅前東館のあり方が、別々に議論をされているが、公共施設全般の再配置の議論がないままに個別の議論が進められているように見える。有識者を集めて、個別の議論を進めて行くにはもったいない気がするが、公共施設マネジメントの視点から今後どのように進めていくのか伺う。具体的に老朽化施設と言えば、「市庁舎」、「消防署」、「図書館」、「歴史民俗資料館」、「港湾ビル」、「立体駐車場」等があるが、それを「建て替えるのか」、「なくすのか」、「複合するのか」、「修繕するのか」、「移転するのか」方針は整理されて議論されているのか。



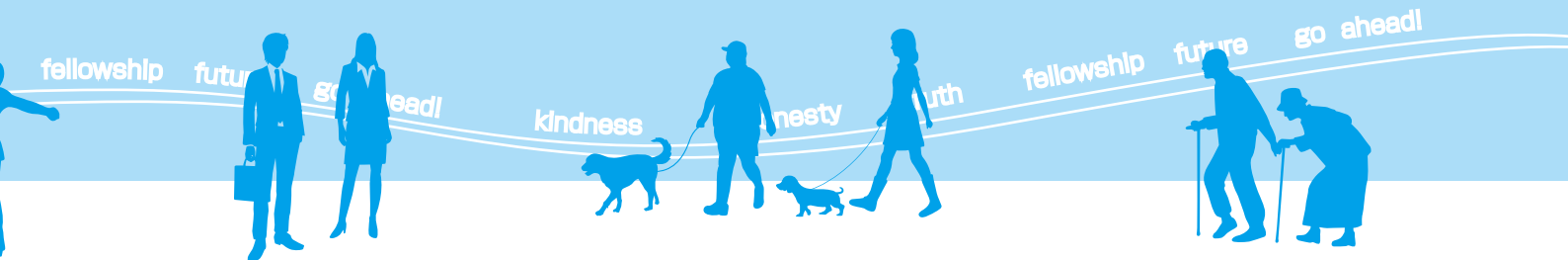
回答 公共施設マネジメントは、質と量の観点で26年度からとりまとめを開始する。また、市の担当部門、シンクタンク、各種まちづくり検討会議体、各種団体とは、相互に情報提供しながら進めていく。

要望 公共施設マネジメントの考え方は絶対必要で、再配置には、利便性を損なわず、複合して運営する効率化がポイントではないかと考えている。それは財政面でも結局のところ安くすむのではないと思う。財政面での視点を今一度、十分に検討されるように要望する。

総括 本件に関しては、市長の方針(仮説でもよい)が全く見えていない。シンクタンクの結論も、民間・公共複合施設という結論に近づいており、以上の状況を加味すれば3月議会の市政方針演説で街作りの素案が出てくることを期待し、市民の皆様の意見を伺いながら議論の準備をすすめたいと思います。

3点目はホームページリニューアルとソーシャルメディアの活用についてです。

課題意識 ホームページリニューアルの予算が、4月議会で承認されています。その進捗状況とFacebookの活用について、確認したいと思いました。その動機は、市長個人のFacebookページが、11月末まで県会議員のままになっていました。個人とはいえ、三原市長の名前を検索すると県会議員になっているのはよくない。何度か秘書に指摘をさせていただいたのですが、放置した状態のため、一般質問することと、加えて、市長のPRマネジメントを秘書広報部門でやっていただきたいと思います。全国の改革派市長と言われる方々は、メディアを上手に活用されており、市政の透明化(ガラス張りの市政)にもつながると思いました。



総括

本質問および回答については、詳細は割愛しますが、ホームページについては、3月を目途にリニューアルを進めており、Facebookの活用も平行して行われていることを確認しました。また、三原のPRという側面で、秘書広報部門がしっかりとマネジメントし、市長の影響力を正しく行使して、市外へのPR、市民の皆様への啓発活動にも活用していただけるとの回答をいただきました。市長公式Facebookページについても、「検討をする」と回答をいただきましたので、進めていただけたと思います。

■ 主な議案

『燃えるゴミ指定袋の価格見直し』

本件については、生活経済委員会に付託審議されました。私は、総務財務委員会所属のため、委員会では直接意見を述べる事ができません。その為、同僚議員の住田議員に以下の質問を託しました。質問は以下の通りです。

1. 値下げの経緯

減量化に一定程度の成果が出たとのことだが、4月から12月の集計で成果が出ていると言えるか。施行から1年も経過していないが、拙速な値下げ提案だとは思わないか。

2. コスト

処理コストの全体をどのようにとらえているか。処理にかかる全ての経費を示してほしい。制度導入のきっかけは、減量化が目的だったが、受益者負担はどのように考えるか。無料化は断念したとのことだが、そもそも無料化を検討する根拠はなにか。

3. 他自治体との比較

値下げの記事が出た日と同日に東広島市は、減量効果が乏しく値上げの検討との記事が出ていたが、他自治体の成果の情報は収集されたうえでの提案か。

回答

時期尚早については、その通りである。審議会でも同様な指摘を受けている。根拠は、4月から12月で減量化が13%進んでおり、値下げを行っても10%削減の目標が達成できると判断したためである。また、もやすごみ指定袋値下げによる市民への負担コスト低減を目的とし、少しでも値下げを行いたい。これ以上の根拠はない。本来、他の自治体ではおおむね3年から5年で見直しをするのが一般的である。

なお、生活経済委員会には市長の出席義務はなく、議員が2名以上求めれば出席を要請できるが、要請がなかったため、生活環境部長が回答した。委員会では、各委員が苦言を呈した上で、全員一致で可決された。委員は賛成したというより反対するだけの根拠に乏しかったところだと思います。また、根拠に乏しい市長の政治判断を、生活環境部長は説明せねばならず、苦しい立場で説明されたことについて、たいへん同情します。本来は、市長がでてこられて説明をすべきだったと思います。

しかし、本会議では、賛成多数で可決されました。

本件に関する私の考えを述べます。私は「賛成」の立場をとりました。

私も時期尚早だと思います。しかし、市長の政治判断を尊重しました。その理由は、「無料化」でなかったことです。選挙時に市長および一部議員が公約とした「無料化」は完全に否定されました。一般質問で寺田議員の質問に対し、市長は、ゴミ袋の無料化は、「処理経費を加味すると不可能」と答弁されました。したがって、処理経費を加味するならば、無料化はできませんし、その旨確認ができたので、「賛成」の立場をとることにしました。

ただ、選挙のために争点化し、都合のいい理解で料金を変えるのはいいとは思えません。

なお、三原市のゴミ処理経費は年間約11億円で、ゴミ袋による収入は約7千万円です。受益者負担について、私は11億円を市民の負担にしているわけではありません。例えば、ゴミを年間1トン出す人と100キログラム出す人が同じ負担でよいのでしょうか。無料ならいくら出しても無料です。100キロ出す人が、1トン出す人も同じ負担になるのです。だから受益者負担の考えは必要だと考えるのです。

■ その他のトピックス

『水道料金の値上げの布石』

議会全員協議会で、水道事業の経営診断の結果説明がありました。

水道会計は、単年度は黒字収支ながら厳しい経営が続いており、簡単に振り返ると、収益25.2億円、支出24.2億円、利益1億円です。企業債は、借入1.5億、償還(返済)5.7億、年度末残高は117.8億円という苦しい会計にあります。

高度成長期に引かれた設備の更新経費がかさむというものです。久井、大和地区にも新たに水道の布設を行っておりその経費も必要です。ついては、水道料金の値上げの検討をしたいとの説明がありました。

しかし、もやすごみ指定袋料金の見直しの課題では、市民負担を考えて値下げをするとのことですが、水道料金は値上げの方向で布石が打たれています。このような生活必需コストをどのような基準で料金を決めていくのか、わかりやすく示すべきだと思います。議論はそれからです。

ただ、市の水道部門は、厳しいコスト削減の努力をされていることは補足しておきます。

コスト削減の努力より社会的変化のスピードが速いというのが現状です。

『陳情』

国会へ陳情を行いました。要望は事項以下のとおりです。
溝手先生には時間を十分にとっていただきました。



訪問先
溝手先生、
寺田先生、
中川先生、
小島先生、
小林先生

1. 木原道路の事業促進について
2. 県道三原本郷線の整備促進について
3. 県道三原東城線の早期着工について
4. 三原日本赤十字病院の産婦人科医療の充実
5. 県道下徳良本郷線の道路改良
6. 国道486号線の交通安全施設(歩道整備)
7. 広島中央フライトロード(主要本郷大和線)延伸部の早期事業着手

『会派視察』

視察先	視察項目
東京都府中市役所	公共施設マネジメント
神奈川県川崎市役所	議会改革ツール(ディスプレイを使った一般質問等)

今議会の一般質問でも当該視察の知見を参考に質問をさせていただきました。

『広報委員会視察』

視察先	視察項目
三重県伊勢市役所	広報・公聴のあり方、議会だより編集方針等
三重県松阪市役所	広報・公聴のあり方、議会だより編集方針等

議会広報のあり方について、上記2市を訪問いたしました。「議員の賛否の掲載」が、一番市民から求められていることが分かりました。三原市でも検討します。また、私も推進の立場で行動します。

■ 3月議会予定(2月20日から開始します)

日	時 間	会 議	傍 聴
2月20日	10時	議会運営委員会	○
2月26日	10時	本会議	○
2月27日	10時	総務財務委員会	○
	13時	福祉文教委員会	○
2月28日	10時	生活経済委員会	○
	13時	建設都市委員会	○
3月3日	10時	補正予算特別委員会	○
		議会運営委員会	○
3月5日	10時	総括質問	○
3月6日	10時	総括質問	○
		議会運営委員会	○
3月7日	10時	総括質問	○
		予算特別委員会	○
3月11日～14日	10時	予算特別委員会	○
3月17日	10時	予算特別委員会	○
3月19日	13時	議会運営委員会	○
	14時	本会議	○

■ 編集後記

議員になって9ヶ月が経ちました。この議会レポートも3号になります。多くの方に読んでいただき、ご意見や激励をいただきましてありがとうございます。今回も文章が長くなってしまい恐縮ですが、ぜひとも読んでください。内容についてご不明な点がございましたらご連絡下さい。今年の私は、「まちづくり戦略」、「財政政策」、「福祉政策」について、昨年以上に追求していきたいと思います。

正田洋一事務所

お気軽にお問い合わせください。

〒723-0062 三原市本町 2-11-12

e-mail info@shoda-yoichi.jp

TEL/FAX 0848-63-0085

携帯 090-6001-0100

honesty

truth

fellowship

future

go ahead

kindness

honesty

truth